

簡易版 TP (ティーチング・ポートフォリオ)

氏名	西野 友一郎
所属機関名	教育学部・中等教育学科
職位	講師
在籍年	3年6カ月

教育の責任

私は岡山理科大学教育学部の中等教育学科に所属しており、英語科の教員（中学校・高等学校）を志望する学生に、英語教員に必要な英語文学の知識を教えている。私が教えている科目は（1）専門科目と（2）学部独自の科目（3）教員免許に関わる科目の3種類である。今回のティーチング・ポートフォリオでは、私が2024年度までの間で行った文学に関連する授業（「英語文学概論」・「英語文学史」・「英語文学講読」・「英語科内容論 B」・「英語探究」・「卒業論文」など）を取り上げ、自分の教育理念を反映した授業を分析・考察する。

教育の理念

私の教育理念は、文学を通して論理的思考力を養う教育を行い、物事の本質を捉える人物を育成することである。教育学部では、すべての学生が、職種に関係なく、社会で生きていく上で必要な教育力を育成する。私は、その教育力へとつながる論理的思考力を、文学を通じて伝えたい。この理念を達成するために、私は文学作品を通して次の3つの具体的な目標を設定している。1つ目は、「文学作品を通して分析力を身に付けてほしいこと」である。2つ目は、感覚や想像力だけに頼りすぎず、「根拠を示しながら論理的に説明ができるようになってほしいこと」である。3つ目は、「文学作品を通して、ことばの解釈の多様性を実感してほしいこと」である。

教育の方法・方針

私が岡山理科大学教育学部で担当している科目は講義と演習が中心である。単独で担当している授業においては、下記に記す4つの教育方法を展開している。

方法1：翻訳を活用した作品の解釈（理念1「分析力」と理念3「解釈の多様性」に該当）

文学作品の読解の際には日本語訳を配布し、作品の内容を正しく理解してもらおう。この方法により、学習者が文学作品に対して感じる苦手意識を少しでも軽減し、文学を身近に感じてもらうと試みている。また、英語の原文と日本語訳を比べることで、別の言語に翻訳されることで作品の印象が変わることを感じてもらう目的もある。学習者は課題を通して、意識されている部分にも気づくことで、1つの文章が様々な解釈できることを知る機会を得る。

方法2：根拠となる箇所を正確に引用して説明する（理念2「論理的思考力」に該当）

期末試験を課す授業では論述形式の問題を出しており、あらかじめ試験の一週間か二週間前に問題を学生に提示し、解答作成のための準備期間を設けている。この方法の利点は、試験の問題について書く内容を学習者が吟味できることで、内容が整理され、論理的な説明を心がけることができることにある。また、書かれた内容があらかじめ考えられたものであることは、

文章の誤字・脱字が少なくなるため、採点する教員も内容を理解しやすいという利点がある。

方法3：精読を課題に取り入れて文章を分析する（理念1・2・3すべてに該当）

物事の本質を見抜くためには、目の前にあるものを正しく分析し、どのような状態であるかを見極める必要がある。これを言葉の芸術である文学に当てはめて考える場合、分析する作品の文章を正しく理解することが必要である。品詞分解ができない場合は、英文の意味をあいまいに解釈している可能性が高い。英作文や読解の指導をする際に正しい英語を教えることができるようになるためには、英文法の知識（品詞分解）が必要不可欠である。

方法4：フィールドワークにおける芸術鑑賞（理念1「分析力」に該当）

文学という芸術作品を解釈するために必要な分析方法を身に着ける一環として、ゼミナールでは美術館訪問を実施している。事前学習では、訪問する美術館に所蔵されている作品を調べ、興味のあるものを選び、その作品が書かれた背景や特徴、さらに作家の生涯について調査する。そして、美術館での実地調査にて実際の絵画を見た後、学習者は絵画を見た印象などをまとめ、ゼミの時間で発表する。

教育の成果

- ・（理念1の成果）英語で書かれた文学作品の精読を通して、学生が作品の構造やプロットだけではなく、書かれている英語の文章の品詞分解ができるようになっていたことが確認できた。
- ・（理念1の成果）フィールドワークに参加した学生は、フィールドワークの前と後で鑑賞した芸術作品に対する見方が変わったことを指摘した。
- ・（理念2の成果）論述式の定期試験では、文学作品から正しく引用しながら説明する解答が増えたため、論理的思考力の向上が見えた。
- ・（理念3の成果）授業評価アンケートの結果：①「文学を読むにあたって、新しい視点での見方が生まれたので、面白かった。」（英語科内容論B）；②「品詞分解も理解し直すことができ、さらに新しいことの勉強になりました。」（英語科内容論B）；③「英語の教員を目指すにあたってただ文法や単語の知識をつけるだけでは良い授業はできないのだと気づかされました。」（英語探究）；④「文学に対しての関心がかなり深まった。歴史と文学や芸術などが繋がっていることがよくわかり、自分自身も海外の文学を学んでいきたいと思った。」（英語文学史）

今後の目標

英文学者の面と教員養成担当者の面のバランスをうまくとった授業を提供し、論理的思考力を育むために、下記の目標を設定している。

- ①次回のポートフォリオ作成のために、今後も授業資料を授業毎に記録する。
- ②学生の学習状況だけではなく、興味・関心を踏まえた上で文学作品の選定を行う。
- ③自分自身の論理的思考力を高めるために英文学の査読誌に挑戦する。

根拠資料

- ・シラバス・授業プリント・授業スライド・定期試験問題・授業課題（プリント/Google Form）
- ・卒業論文・フィールドワークの行程表・授業評価アンケート